

骨折したときの固定方法(副子等)

副子(添え木)固定の目的

患部(骨折をしている箇所)を固定し安静にすることにより苦痛を軽減、やわらげることができ、合わせて神経・血管を傷つけるなど状態を悪化させることを防ぐことにあります。

副子の種類と固定の方法

(1) 副子の種類

副子は特別なものを使わなくても良い!

ありあわせの物で十分代用する事が出来ます。例えば、ケガをした場所によって割り箸、鉛筆、木の枝、杖、定規、ダンボール、週刊誌、新聞を厚くまとめたもの、パイプなど身近にある物を利用しましょう。

(2) 留意事項

- ① 骨折かどうかわからないときは、動かさないように!
- ② 骨折の疑いがあれば、骨折として扱うこと!
- ③ 着ている服など、必要があれば無理に脱がせないで本人の同意を得て切る!
- ④ 骨折しているところを無理に戻したり引っ張ったりしない!

固定の方法

骨折している箇所から骨が出ている場合は、骨に触れたり戻したりしないで清潔なガーゼやタオルで覆ってから、骨折している箇所の上下の関節を合わせて固定します。副子と体の間の隙間に布などを詰めて動かないように固定します。骨折しているところが怪我で出血している場合は、別々の包帯・三角巾やタオル等で被覆・固定をしましょう。

腕の固定



※ 骨折箇所を避けて固定します
さらに三角巾などで、骨折した腕全体が動かないように固定します

脚の固定



※ 腰部から動かないように固定します

足首の固定



※ 足首が動かないように固定します
(自由に曲げられるダンボール等が便利です)

固定に使える物の一例



※ 左から、フェイスタオル・ダンボール・雨傘・丸めた新聞紙
(巻いて固定できるものや、固く添えられるものであれば何でも可能です)